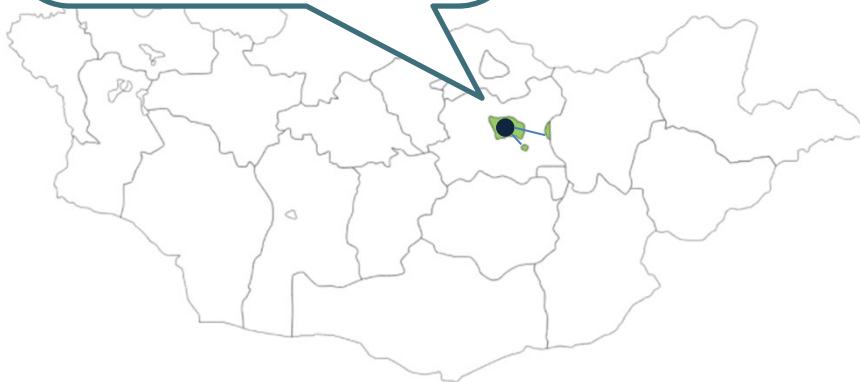


モンゴル国ウランバートル市-札幌市に関する都市間連携

1981年に札幌市の提唱により始まった国際ネットワーク「世界冬の都市市長会」に、ウランバートル市は1998年に加盟し、以後、両市の情報・技術交流が続いている。札幌市とウランバートル市の都市間連携事業は、2016年度に再生可能エネルギーの導入や廃棄物発電事業の調査が実施された。2020年度より開始された本事業は、同じ寒冷地にある都市として、住宅・建築分野における省エネ技術の普及促進を中心に支援を行い、脱炭素社会の実現に貢献する。

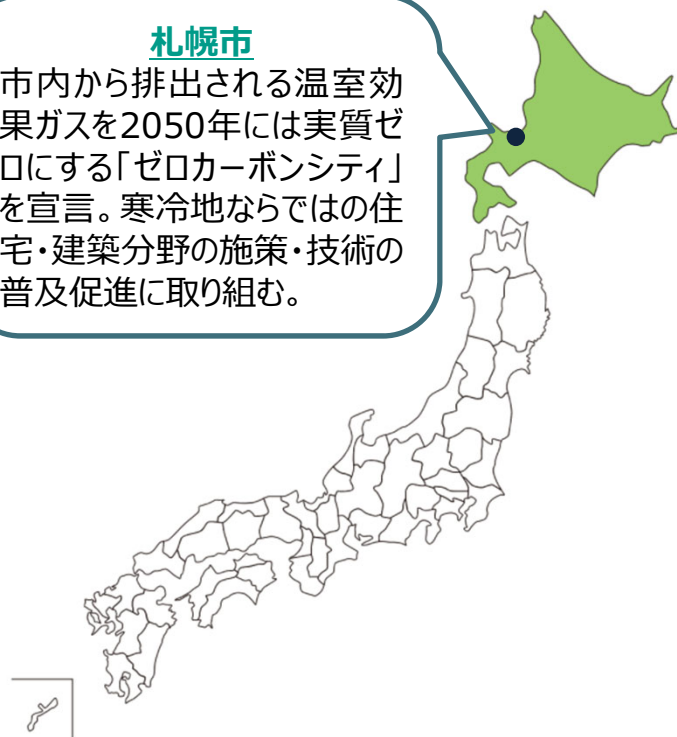
モンゴル国ウランバートル市

パリ条約に基づくNDCで、2030年までにGHG排出量22.7%削減を目標に掲げ、市内の石炭利用の制限や再生可能エネルギーの利用、建物の断熱性能の向上に取り組む。

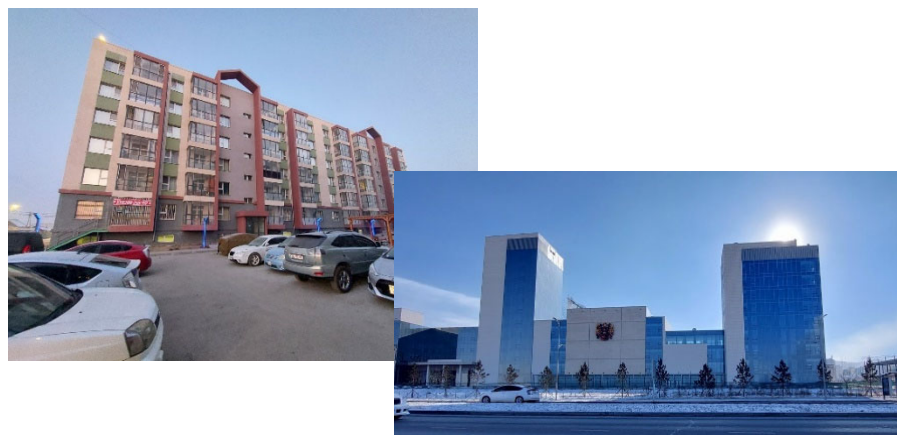


札幌市

市内から排出される温室効果ガスを2050年には実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言。寒冷地ならではの住宅・建築分野の施策・技術の普及促進に取り組む。



モンゴル国ウランバートル市-札幌市に関する都市間連携



短期フェーズの事業候補地の対象として検討した
Serena town（左）とウランバートル市新庁舎（右）

【事業活動】

- 札幌市の脱炭素社会実現に向けた施策・取り組みの紹介
- グリーンビルディングにかかる施策、国際支援の調査
- ウランバートル市内住宅での室内環境測定・分析
- フェーズごとのJCM案件形成に向けた調査
- ワークショップ及び講座の開催（計4回）

【成果】

- 札幌市の施策・取り組み、地域熱供給システム・地域エネルギーマネジメントシステムの先行事例の紹介による知見共有
- グリーンビルディングに係るモンゴルの施策、ウランバートル市での国際支援について確認
- 室内環境測定の実施と分析に基づく、室内環境の改善と適切なエネルギーマネジメントの提言
- 短期・中長期フェーズごとの導入技術と事業候補地の提案と、JCM案件としてのGHG削減効果の試算と経済面から実現可能性の検討
- ZEB・ZEH及びパッシブハウス講座の実施によるグリーンビルディングへの理解促進